

令和7年度 港区立小中一貫教育校白金の丘学園経営計画

港区立小中一貫教育校
白金の丘学園
校長 篠崎 玲子

1 経営理念

港区立小中一貫教育校白金の丘学園は、本地区のこれまでの歴史や文化、伝統、地域の皆様の思いや願いを受け継ぎ、児童・生徒がこれからの時代を生き抜くために、「多様な人々と協働し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な未来社会を切り拓いていくための資質・能力」を学園として児童・生徒に身に付けさせるとともに、「よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る人間として、将来的に国際社会で活躍できる人材」を育てます。

また、港区教育大綱(素案)に掲げられている「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」を踏まえ、地域に根ざした教育活動を意図的・計画的に展開することで、地域とともにある学園を目指し、未来を担う、未来を託すことのできる児童・生徒の育成に努めます。

2 教育目標

児童・生徒に対し、国際社会の中で誰とでも助け合い協力しながらたくましく生きていくための教養と心身の健康を身に付けさせ、児童・生徒一人ひとりが中心となり活躍できるように、次の目標を定めます。

「相手を思いやり 礼節ある人」
「自ら学び 自ら考え 自ら行動する人」(◎今年度 重点教育目標)
「よく運動し 強い心と健康なからだをつくる人」

社会に開かれた教育課程の実現と全教職員によるカリキュラム・マネジメントの実施をとおして児童・生徒に社会の一員として必要な力を身に付けさせるとともに、教科横断的な視点から教育課程の編成を図り、教育目標の達成に努めます。

3 目指す学園像

「児童・生徒一人ひとりが活躍できる学園」
「多様な視点を学ぶことができ、誰にとってもやさしい学園」～校訓：「9年間の笑顔と真剣」～
「地域とともにあり、地域に根差した学園」～10周年を迎えるにあたって～

4 目指す児童・生徒像

「将来を見据え、主体的に学ぶ白金の丘学園の子」

5 目指す教師像

「自ら学ぶ教師」・「一人ひとりに真に寄り添うことができる教師」
○教育に対する熱意と使命感をもつ教師 ○豊かな人間性と思いやりのある教師
○児童・生徒のよさや可能性を引き出し、伸ばすことができる教師
○組織人として積極的に協働し互いに高め合う教師(組織を考えた動きのできる教師)
○コンプライアンス(法令遵守)意識が高い教師

6 今年度の取組目標と具体的方策

- (1) 小中一貫教育校としての強みを最大限に生かした教育活動の実施
教職員一人ひとりが「小中一貫教育校のメリット」を最大限に生かした教育活動を展開できる

よう強く意識します。そのためには以下のような取組を実施します。

① 授業や行事の連携強化

小学校・中学校共通での活動を計画的に実施するほか、開校10周年関連事業において合同で行ったり、関連して行ったりします。また、小学校・中学校それぞれの取組においても可能な限り連携します。

② 中学校教員による小学生への授業や小学校教員による中学生への授業の実施

中学校教員による教科の専門性を生かした学習を小学校段階においても取り入れ、小学生の学ぶ意欲を高めます。また、小学校教員による中学生への授業においては道徳を学習します。発達段階を意識した指導に努めることや多くの目で生徒を見取することを目的とし、生徒の良さを最大限伸ばしていきます。

(2) 児童・生徒一人ひとりが学ぶ意欲をもち、学習活動に取り組む姿勢を育む環境づくり

① 国際理解教育のさらなる充実

国際科(小)・英語科国際(中)の計画をさらに充実させます。

○各学年が、国際理解教育に関する必ずどこかの機関や団体との連携、交流について計画します。

○シンガポール修学旅行を契機とした学習を実施します。

・9年生だけではなく、他学年においても、シンガポール修学旅行を視野に入れた指導計画を策定します。

・シンガポール修学旅行の事前学習、事後学習をより効果的な形で計画します。

○メトロラーニング(小学校)やインタビュー活動(中学校)を取り入れた内容の設定をします。

② 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた複線型授業の実施

(ICTを活用した学びの充実)

○「複線型授業 CHALLENGE DAY」を設定し、学びの充実を図ります。

・年3回(学期に1回)設定し、指導主事による指導・助言をいただくことで、授業の質を高めていきます。

・指導案もしくはポイントシートを小中教職員で情報共有し、指導に生かします。

○「MINATO×ICT DAY」の設定し、保護者・地域への周知を図ります。

・年1回(2学期の学校公開日に実施)の設定をし、どの学年・学級においても複線型授業を実施し、保護者や地域に公開し理解を図ります。

③ 基礎学力・活用力の習得

○小学校全学年における教科担任制と第1学年のプレクラス制度を活用します。

小学校の教科担任制を各学年において積極的に活用して、より専門性の高い授業の実現と指導体制を工夫することにより、学力体力向上や小1プロブレムや中1ギャップを生まない環境づくりに努める。多くの目で児童を見取ることにより、その児童のもつよさを最大限に伸ばしていきます。

また、今年度から小学校1学年生に「プレクラス制」を導入し、4月のプレクラスからの5月からの本学級の設定を通して、より児童の実態に合わせた指導の実現に努めます。

○全国学力・学習状況調査、CBT調査の結果分析を踏まえた授業づくりに努めます。

○少人数指導や教科担任制に授業を各課的に取り入れ、児童・生徒の学力の向上に努めます。

○漢字検定・英語検定・数学検定を活用し、児童・生徒一人ひとりに年間の目標を明確に持たせ、目標達成に向けて学習に取り組ませます。

④ 9年間の系統立てたキャリア教育の実施

国際人として活躍するために、自己実現し、社会の仕組みを学ぶ系統立てたキャリア教育の計画を策定します。各学年ごとにメインの取組を設定します。さらに、内容の設定はもとより、身に付けさせたい技能も明確にします。(プレゼンテーション、情報発信(ホームページの開設)、クラウドファンディング、起業 など)

⑤集中力を持続するための体力向上

体力テストの結果をうけ、総合的に体力向上に努める取組を実施します。

(3)安心・安全を担保する教育活動の実施

- ① 様々な教育活動を通して、児童・生徒が自分の身を守ることに当事者意識をもって、主体的に安全な行動ができるよう指導していきます。
- ② 地域防災訓練では、児童・生徒が有事の際に自分の力で動けるような訓練を実施します。実施にあたっては、防災協議会や高輪地区総合支所、関係町会、PTAの方の御協力をいただきながら、地域で防災機能を高めておくことができるようするとともに、同アカデミーの三光幼稚園とも共同で開催することで地域の教育力向上も高めてまいります。
- ③ 学校の教育環境と地域環境に対応した安全指導を工夫し、より実践的な避難訓練を計画・実施します。小学校・中学校が合同で訓練を行うことで、学園として児童・生徒、教職員の防災意識を高めていきます。
- ④ 月1回の避難訓練、安全指導はもとより、セーフティー教室、薬物乱用防止教室の実施とあわせて、「地域安全マップ」の定期的な点検や交通安全教室及び安全指導により、防犯・防災意識の向上を図ります。
- ⑤ 熱中症や感染症、犯罪や事件・事故・災害等、不測の事態に組織的に対応し、保護者・地域、関係諸機関に的確な情報を発信します。

(4)生活指導～規範教育の励行による予防的な生活指導の実践～

- ① 「白金の丘スタンダード」(小学校)と「白金の丘学園校則」(中学校)を発達段階を踏まえ、発展的統合を図ることで、小中一貫教育校として系統立てた指導を実施します。児童・生徒に周知するだけでなく、意見を聞きながら、よりよいきまりを設定していきます。また、保護者・地域に対して、このことを情報発信し、児童・生徒の規範意識の向上や主体的にルールを守る態度を育成していきます。
- ② 生活指導重点項目を設定し、児童・生徒に意識付けさせます。
「あいさつ(会釈)・返事」「身だしなみ・整理整頓」「ことば遣い」「時間厳守」「気遣い」
※ノーチャイムの生活環境を生かし、始業時間を守らせることにより、時間厳守への意識を高める。
- ③ 学園朝会を月に1度設定します。1年生から9年生までの全児童・生徒が一堂に会し、全校での朝会を行うことで、集団としての所属意識を高めるとともに、他学年に対しての気配りの心等を育成します。

(5)特色ある教育活動の充実～学校運営協議会並びに「おかサポ」と連携した教育活動の実施～

- ① 学校運営協議会並びに地域学校協働活動(おかサポ)やPTAと連携して、教員や児童・生徒のサポートをいただきながら、特色ある教育活動を展開します。

主な活動

- 小学校：図書活動(読み聞かせ 読書感想文講座)、夏季学習会、郷土学習等
中学校：部活動支援、定期考査前学習会・長期休業補習、英検・漢検・数検支援等
- ② これまで培った各企業・団体とのネットワークや家庭・地域との連携を生かした体験的な活動を、「学校2020レガシー」として継続・発展していきます。
 - ③ 大学企業と連携した、SDGsについての系統的な取組を通して、環境保全の意識を高め、将来の持続可能な社会の創り手となる児童・生徒を育成します。
 - ④ ピオトーププロジェクトの利活用を通して、理科教育・環境教育の充実や保幼・小中の連携を深める空間に位置付けます。
 - ⑤ 開校10周年式典や記念行事開催に向けて、意図的・計画的に準備を進め、学校運営協議会や地域との連携をより一層深めます。

(6) 偏見や差別、いじめは絶対に許されないという風土づくりの徹底

① 定期的なアンケート調査と校内委員会（随時開催）を中心に、いじめの早期発見に重点を置き、「予見・早期発見・早期解決」に向け組織的に対応し、「偏見、差別、いじめをしない、させない、見過ごさない」を具現化します。

そのうえで、いじめ発見・未然防止に向けての雰囲気づくりに努めます。困ったら、周りの人に助けを求めること=援助希求を児童・生徒自らが出せるよう、指導を行っていきます。

② 「正しいことば遣い」の励行を教職員自ら徹底し、児童・生徒に手本となるよう指導していきます。人格や存在を否定したり、人権を脅かすような言動をしたりすることは絶対にしてはならないということをすべての教育活動において指導し、児童・生徒の人権意識を高めていきます。

③ SC（都・区）、SSW、養護教諭を中心に、子育て相談や子供の悩み等のカウンセリングを通して、児童・生徒、保護者に寄り添う教育相談体制を充実させていきます。

(7) 不登校の児童・生徒に対して、心に寄り添った指導を行っていきます。

① 可能な限り、学校に登校できるよう、一人ひとりに寄り添った対応に心がけます。

② 担任や学年の教員はもとより、SC（都・区）、SSW、養護教諭との連携を密にし、安心して相談できる体制を構築します。

(8) 特別支援教育の推進 「自立を促し、小集団での学びを深め、集団適応能力の伸長を目指します。」

① 早期支援の視点で、校内委員会を中心に、「けやきルーム」の入退室や学習支援員の配置について、組織的に協議・対応します。

② 活用性の高い個別指導計画・個別の教育支援計画を作成、活用することはもとより、関係する教職員、保護者で情報を共有し、自立への支援を行っていきます。

③ 「けやきルーム」を中心として、特別な支援・配慮が必要な児童・生徒に対する「自立活動の啓発」や「集団適応能力の伸長」等、個に応じた自立支援の充実を図ります。

④ 特別支援コーディネーターを中心として、すべての教員が特別支援教育に関する基礎的な知識・技能を身に付け、児童・生徒理解を促進させる研修会を企画・運営します。

7 中期的目標と具体的方策(令和7年度から9年度)

(1) 児童・生徒一人ひとりが活躍できる学園を実現

本学園において、児童・生徒一人ひとりが活躍していると90%の児童・生徒が回答できる教育活動を展開していきます。また、3年生や4年生の段階で、7年生から9年生の活躍している場面を知ってもらうことで、7年生からの内部進学率70%を目指します。

(2) 地域・保護者から愛され信頼される学園づくり

保護者同士、保護者と教員、地域と教職員、保護者と地域のかかわりを大切する学園風土を醸成します。特に、保護者が抱えている悩みなどに学校(教員)が気軽に相談にのることができるよう、話しやすい環境づくりに努めます。

令和7年度は開校10周年を迎えることから、本学園ができるまでの地域の思いや3校(朝日中学校、三光小学校、神応小学校)の伝統を引き継ぎつつ、新たな歴史を刻んでいくため、学校運営協議会を中心に地域コーディネーターと連携し、教育活動を充実させるとともに、地域に根差し、愛される学園を築いていきます。

(3) 9年間の成長を見通した質の高い教育活動の推進

教育目標(3つ)の達成に向け、令和7年度から令和9年度にかけて、重点項目を置きます。

令和7年度は「自ら学び 自ら考え 自ら行動する人」、

令和8年度は「相手を思いやり 礼節ある人」、

令和9年度は「よく運動し 強い心と健康なからだをつくる人」を重点とし(予定)、教育内容の改善・発展を図りながら、児童・生徒の育成に努めます。

さらに、三光幼稚園や近隣保育園との交流を深め、保幼・小中連携やスタートカリキュラムの学習を生かし、幼児教育と義務教育との接続を図ることで、12年間の成長過程を考えた指導を行います。

(4)組織的に資質・能力を高め合う教員集団の育成

教師一人ひとりが、目指す教師像を意識し、「自ら学ぶ教師」・「一人ひとりに真に寄り添うことができる教師」となることができるよう、様々な研修会への参加を促すほか、主任教諭を中心としたOJT研修会を行い、組織的に集団としての指導力を高めていきます。

(5)人口推計を踏まえた教育活動

人口推計に基づく予想される学級数増に対応し、適正な教育活動を保持できるよう、教室の配置計画等の準備を進めます。体育等の授業のコマ数の関係から、学習する教室環境の調整が必要なことから、そのことも鑑みて指導計画についても検討します。

8 教職員の働き方改革と具体的方策

(1)定時退勤の推進及び年次有給休暇20日の取得の徹底

日頃から、定時退勤(午後4時45分)を目指し、遅くとも午後7時には退勤します。

夏季休業期間中に3週間ほどの閉校期間を設定し、リモートワークや夏季休暇、年次有給休暇を取得しやすい環境をつくります。併せて、年次有給休暇の取得20日を全職員が目指します。

(2)会議の精選と効率的な業務遂行

年間を通して、会議の回数や内容の選択をすることで、効率的な業務の遂行を目指します。効率的な業務の遂行を図ることで、教員が児童・生徒に向き合い、寄り添う時間を確保するほか、教員のライフワークバランスの向上につなげます。

9 その他

(1)学園だより、学年だよりの配信、X(旧Twitter)や学校HPのリアルタイムな更新を図り、区民、地域にも積極的に情報発信と内容の精選を図ります。閲覧者が知りたい情報を掲載できるよう努めていきます。

(2)校内掲示物(月目標、学園だより、学年便り、ポスター等)は、常に新しいものを掲示し、様々な情報を周知します。

(3)来校者や電話の対応に教職員一人ひとりが接客意識をもち、区民、地域からの声にも迅速かつ丁寧に対応します。

(4)服務事故未然防止に向け、意図的・計画的に校内研修会の実施し、教職員一人ひとりの服務規律の意識を高め、服務事故を0(ゼロ)を目指します。

(5)望ましい食習慣を築くために、給食を中心とした食育指導のほか、行事や授業と関連した指導を実施することで、生涯健康であることを意識できるよう児童・生徒を指導します。

(6)学校運営協議会に承認された学園経営計画の具現化に教職員が一丸となって取り組み「活気とチームワークの白金の丘学園」と称されるよう児童・生徒が活躍できる学園経営を進めます。